

S1. 「働き方改革を踏まえた港湾・海岸事業の進め方」

港湾・海岸事業の海上工事を安全かつ効率的に進めるためには 3 つのポイントがあります。その 1 つは「作業可否の事前予測」です。朝には夕方までの、夕方には翌日の、そして金曜には来週一杯の、正確な波浪や風の情報が必要で、工種によっては降雨や潮位も気になるところです。2 つ目は「自然への対応力」です。より高い波浪でも安全に作業を継続できる台船、機器、工法の導入や開発が求められており、それらの性能の緻密な把握があってこそ作業の中断・再開の判断力も研ぎ澄まされます。そして 3 つ目が技術者の心技体、その中でも近年になって注目を浴びているのが「働き方」です。2017 年 3 月に「働き方改革実行計画」が発表され、労働時間、女性・若者の活躍、ワークライフバランス（子育て・介護と仕事の両立、イクメン・イクボス）、ハラスメント防止など、様々な言葉が飛び交うようになりました。個々の作業員がその日のノルマをこなすだけでなく、組織としても長期にサステナブルな発展を遂げるのがコンプライアンスの一つとして求められています。

そこで、本セッションでは、「働き方」を中心に「作業可否の事前予測」や「自然への対応力」も含めて、港湾・海岸事業を実施する上での課題とその解決策に関して、幅広い議論を行いたいと考えております。施工だけでなく、設計や発注者の立場からのインプットも歓迎いたします。